

平成 30 年 7 月 12 日

平成 30 年 8 月 4 日訂補

大学評価・IR に携わるみなさまへ

大学評価・IR 担当者集会 2018 開催のお知らせ (第 2 報)

※申し込み方法、IR 実務担当者、研究マネジメントに資する IR セッション等の内容詳細版

大学評価・IR 担当者集会は、今年で 12 回目となりました。第 1 回 (2007 年/平成 19 年) から 5 回は九州大学で、その後、関西地区 (神戸大学、立命館大学) で 6 回開催し、今回は九州に戻り、九州工業大学での開催となります。

昨今、「内部質保証システム」が 1 つのキーワードになりつつあります。内部質保証システムの構築とは、「継続的な改善活動の循環プロセスの導入」であると私たちは捉え、大学評価の導入時に考えられていた理想の状況の一つに近づいたと考えております。逆に言えば、我が国に本格的な大学評価制度が導入されたものの、大学の改善に対して大学評価 (現状把握) が未だ十分に機能していないことを現しているのかもしれませんが、IR も大学評価同様、大学の現状を把握し、改善に向けた支援をするための機能ですが、とにかく導入して動かし始める状況から、学内の情報を円滑に流通させるような機能へと育ちつつあるように見受けられます。

このような状況を踏まえ、今回も 3 日間にわたり、大学評価 (現状把握) と IR の課題解決・高度化のためのセッションや事例共有等を設定し、そこでの議論や情報交換を通じて知識やスキルの習得につなげていただく場を提供させていただきます。1 日目は大学評価人材や IR 人材に求められる能力に関する講演を皮切りに、1) 計画立案・評価のためのロジックモデル、2) 内部質保証に向けた IR や調査機能の育成、3) 次のフェイズに向けた IR の Tips、のそれぞれを扱う 3 つの分科会を開催します。2 日目は、1) 評価初心者向けセッション、2) 評価・IR 実務担当者が課題を持ち寄って相互に解決策を考えるセッション、3) IR 初心者向け初級人材育成セッション、4) 管理職・設計運用担当者向け内部質保証システム設計・運用演習の終日に及ぶ計 4 セッションを企画しています。最終日は、会員のみなさまに IR の事例をご提供いただく IR 実務担当者セッション (従来開催してきた IR 実務担当者連絡会に相当するセッション)、研究マネジメントに資する IR を考えるセッション、共催団体の統計数理研究所・日本計算機統計学会のみなさまによる統計学の基礎講座、有志による BI ツール (PowerBI) 活用講座といった、より具体的なセッションを企画しています。

なお、今回からすべてのセッション・分科会を選択式とし、ご都合やご興味に合ったセッション・分科会にご参加いただけるような構成とさせていただきます。また、総会はポスター掲示方式とし、ご来場いただいた際に、審議事項と報告事項をご覧いただける方式に改めます。

1. 主催者・共催者

主催：大学評価コンソーシアム、国立大学法人九州工業大学、九州大学基幹教育院【次世代型教育開発拠点】

共催：大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所、日本計算機統計学会

2. 日時

平成 30 年 8 月 22 日 (水) 13 : 30 ~ 17 : 50 [懇親会 18:00 ~ 20:00 (参加任意・有料)]

23 日 (木) 9 : 30 ~ 17 : 50

24 日 (金) 9 : 00 ~ 16 : 00 の時間帯 (セッションにより異なります)

3. 会場

九州工業大学 戸畑キャンパス 百周年中村記念館、未来型インタラクティブ教育棟ほか
(北九州市戸畑区仙水町 1-1)

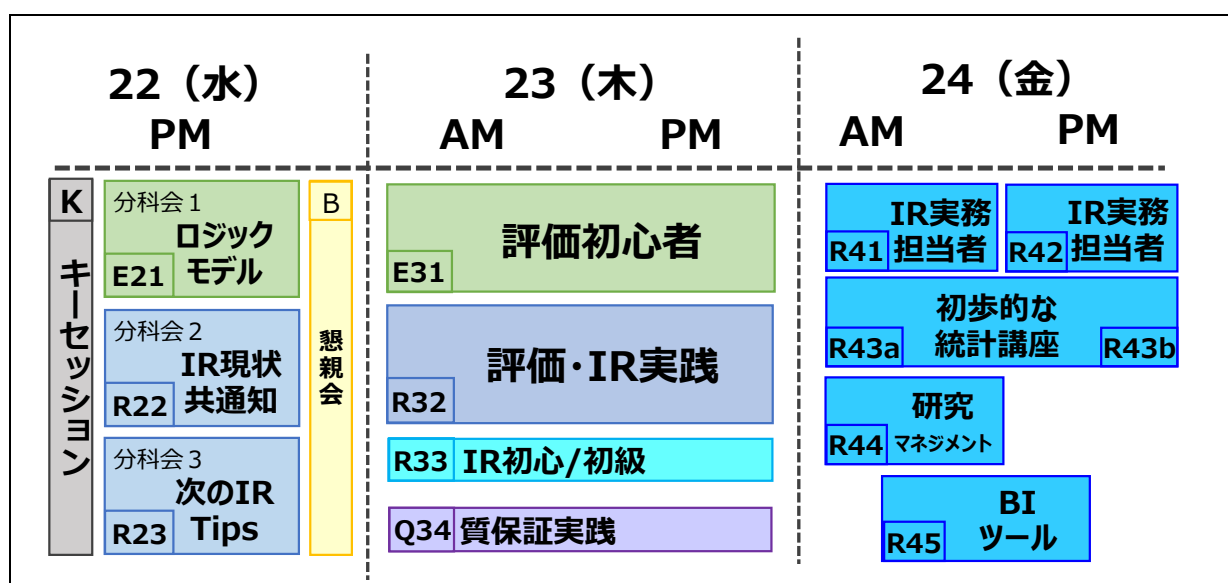
<http://www.kyutech.ac.jp/information/map/tobata.html>

4. 対象と参加費

- 大学において、大学評価や IR 等の現状分析、現状把握に関連する業務に携わっている方、あるいはこれまでに携わった経験を有する方、関係機関等に所属される方、関連する民間企業等の方を対象とします。
- 大学における評価部署、IR 部署や企画部署での勤務経験は問いません。学務系、総務系等のセクションの職員、学部やセンターの教員、技術職員、URA 等の専門職、大学以外の機関所属であっても大学評価や IR 等の現状把握を通じた大学の諸改善に興味をお持ちの方であれば参加いただけます。
- 参加費は、公的研究費の助成や九州工業大学 (開催校) のご配慮により徴収しません。そのため、原則的に **資料はオンライン配布** となります。ワークの関係で必要な紙資料を **印刷の上、ご持参いただく** 場合もありますので、参加セッションのご案内に留意してください。

5. セッション構成

大学評価・IR 担当者集会は、相互交流、相互学習、情報共有をキーワードに開催しています。従いまして、多くのセッション・分科会で他大学・他機関の方との討論や情報交換等が設定されます。なお、今年度は参加必須のセッションはありません。



6. タイムテーブル

第1日：8月22日（水）午後	
13:30～13:45	ご挨拶・趣旨説明
13:45～14:45	<p>[K] キーセッション「評価人材、IR人材に求められる能力」（定員 150 名）</p> <p>大学評価コンソーシアムでは、IR人材に求められる能力について、評価人材も含めたルーブリックを策定していますが、これまで開催してきた人材育成研修等での経験を踏まえて見直しを進めています。このセッションでは、この見直し作業の仕上げとして、会員のみなさんにも参加いただく形（申し込みの際に、班編制用の情報収集を兼ねた見直し版のルーブリックをもとにした知識、スキルについてお伺いする予定）で評価人材、IR人材に求められる能力とその養成について考えていきます。</p> <p>[担当] 小湊卓夫（九州大）、畠田敏行（茨城大）ほか</p>
15:00～17:50	<p>[E21] 分科会 1 「計画立案・評価のためのロジックモデル」（定員 30 名）</p> <p>昨今、内部質保証システムの構築が必要とされ、継続的な改善の仕組み作りが大学経営において重要な課題として捉えられています。特に、大学の計画立案に関する固有の難しさから、その評価が困難になることが多くの大学で生じています。そのため、どのように計画を策定しそれを評価していけば良いのか、また計画のモニタリングや評価に必要な指標はどのように設定すれば良いのかといったことが、強く求められている状況です。</p> <p>そこでこのセッションでは、政策評価で使われるロジックモデルの手法を用いて、目標に達するための計画間の論理的な因果関係を明らかにし、その過程の中で評価可能な計画立案を行い、それを評価する基準となる指標の策定を行うことを目標とします。</p> <p>ロジックモデルに関する基本的な内容を理解するための講義と、架空の大学のケースを使つての演習を組み合わせ、評価を計画につなげる（継続的な改善）観点や手法を身につけることを目指します。</p> <p>[担当スタッフ] ○小湊卓夫（九州大）、関隆宏（新潟大）、土橋慶章（神戸大）、荒木俊博（淑徳大）ほか</p> <p>[R22] 分科会 2 「内部質保証に向けた IR や調査機能の育成」（定員 100 名）</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、内部質保証システムの構築が求められています。教育の内部質保証とは、即ち、目標に照らした評価（学修成果の測定等を含む現状把握）と改善（FD 活動等）の継続的な実施です。そのためには、学内の評価制度の再整理だけでなく、IR 等の現状把握のための機能強化も必要となります。「学内の評価制度の再整理」については、23 日のセッション（[Q34]）に譲り、ここでは「IR 等の現状把握のための機能強化」に向けて何をすればよいのか、を考えていきたいと思ひます。 全国の大学にご協力いただいた IR の実態調査（平成 30 年 1 月実施）について、分析が進んで来ました。各種学会等で報告したものを再編して総括的に報告し、参加したみなさんと IR の現状と課題について共有したいと思ひます。 限られた人員でも IR 機能を十分に発揮できるように各大学で共通的に見られる現象の括りだしを進めています（例えば、1 年前期の成績はどのようなデータと相関することが多いのか、成績の良いグループはどのような属性か等）。これらの「共通知」につい

	<p>て現時点での報告を行い、参加者の大学ではどうか、という点について議論していただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記報告をもとに、参加者の大学等における現状と課題を会場全体で共有し、内部質保証システム運用のための IR や調査機能の充実に向けた足がかりを得たいと考えています。 <p>〔担当スタッフ〕 ○ 鳥田敏行（茨城大）、大野賢一（鳥取大）、末次剛健志（佐賀大）、佐藤仁（福岡大）、藤井都百（九州大）、橋本智也（四天王寺大）、岡部康成（帯広畜産大）、田中秀典（宮崎大）、齋藤渉（東北学院大）ほか</p> <p>〔R23〕 分科会 3 「次のフェイズに向けた IR の Tips ～学内データの有効活用に必要なこと～」（定員 60 名）</p> <p>大学経営や教育改善において IR 機能を有効活用するためには、IR 部署に対し学内データへの幅広いアクセス権を付与することが不可欠といえます。米国の大学では、「データは大学全体のもの」という認識が定着しており、全学統合型データベースが構築され、データ分析とその結果のレポートが効率的かつ継続的に実施されています。一方、日本の大学では、IR 部署が設置されたものの、統合型データベースの整備はおろか学内データへの広範囲かつ継続的なアクセス権が確立されているとは言えず、IR 機能を有効活用できていない状態が散見されます。</p> <p>こうした実態を踏まえ、本セッションでは、このような日米間の違いを整理し、データ収集や活用に関する規程の必要性などについて、実践事例を交えて話題を提供します。そのうえで、参加者の所属大学においてデータを収集・有効活用する際に必要と思われる取り組み等について、グループワーク形式での議論や、話題提供者と参加者との質疑応答などを行います。これらを通じて、学内データの有効活用に必要な実践知の提供と共有につなげることを想定しています。</p> <p>〔担当スタッフ〕 ○ 浅野茂（山形大）、山本幸一（明治大）、藤原宏司（山形大）、白石哲也（清泉女子大）、山本鈺（九州工業大）、上島洋佑（愛媛大）ほか</p>
18:00～20:00	<p>〔B〕 懇親会 [キャンパス内・鳳龍会館→百周年中村記念館]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会費 2,000 円となります（事前申込制で参加は任意）。

第 2 日 : 8 月 23 日 (木)	
9:30～17:50	<p>〔E31〕 評価初心者セッション（定員 40 名）</p> <p>評価担当者として「評価とは何か」について基本的事項を理解するための講義と演習を行います。想定する参加者は、評価の実務経験がほとんど無い方（概ね 1 年未満）です。（評価初任者研修として、毎年ほぼ同じ内容を扱いますので、過去に第二分科会や評価初心者セッションに参加したことがある方はご遠慮ください。）</p> <p>〔担当スタッフ〕 ○ 関隆宏（新潟大）、土橋慶章（神戸大）ほか</p>
	<p>〔R32〕 評価・IR の実践・課題共有セッション（定員 70 名程度）</p> <p>本セッションでは、評価担当者や IR 担当者が抱える課題、各機関で改善に結びついた事例等を持ち寄り、参加者同士が以下に示すような観点について議論を行うことで、実践</p>

事例の体系化を図るとともに、課題に共通する背景や普遍的な対応策等を模索していきます。想定する参加者は、評価または IR 業務に一定程度携わっている方です（学外の機関、民間企業等で評価・IR 活動を支援される方にもご参加いただけます）。

- 組織として、評価業務・IR 業務における現状把握をどのように効率的・効果的に行うか
- 現状認識・現状分析の中で見えてきた学内の課題を改善に結びつけるにはどのようなことができるのか
- 改善に向けてどのような支援を行えば、大学が進むべき方向に向かいやすくなるのか

・類似の課題を抱える参加者同士によるグループ討議及び情報共有セッションを行います。

・今年度は、ファシリテーター（議論の引き出し役）のスタッフを原則として配置せず、参加者の中から選出していただきます。ただし、評価・IR 業務の経験が浅く、参加受付時にファシリテーターを配置した班を希望された方については、当該班に割り当てることもあります。

・グループ討議では、事前に簡単な進行マニュアルを配布しますので、参加者の皆さまはご一読のうえ、当日班のメンバーと協力しながら議論の活性化、討議結果のとりまとめ等に努めていただきたいと思います。

・情報共有セッションでは、取りまとめた討議結果が記入された班ごとのホワイトボードを用いて、参加者同士で議論・共有していただきます。

【事前課題】 共通テーマで議論できる班編成を行うため、事前課題（所属機関における課題及び関連するキーワード等）については、7月23日（月）～8月2日（木）18時までに提出（入力）願います。また、セッション当日は、入力内容、補助資料等を班の人数分印刷の上、ご持参ください。

※事前課題については、参加申し込み直後でも入力可能です。

[担当スタッフ] 浅野茂（山形大）、荒木俊博（淑徳大）、○大野賢一（鳥取大）、岡部康成（帯広畜産大）、末次剛健志（佐賀大）、田中秀典（宮崎大）、橋本智也（四天王寺大）、藤原宏司（山形大）、山本鉦（九州工業大）、山本幸一（明治大）ほか

[R33] IR 初心者/初級セッション（定員 40 名）

・IR 担当者には、データ分析を行うだけでなく、依頼者の問いに応じてその結果を分かりやすく示すとともに、意思決定に繋がるような情報提供（レポート）が求められます。

・本セッションでは、IR 担当者（初級）がデータ分析や活用を行う際の注意点や課題、具体的な方法等について、講義や演習を通じて学んでいきます。

・本セッションの対象者は、IR 業務の経験が概ね一年未満程度の方とし、IR 業務に必要な基本的な考え方を講義します。また、演習においては架空の大学における IR オフィスの担当者として、要請された課題に対しどのように対応し情報を提供していくのかを、グループワークを通じて検討して頂きます。

・なお、九州大学次世代型大学教育開発拠点や大学評価コンソーシアムがこれまで開催してきた IR 初級人材育成研修と講習内容は一部、重複しますのでご注意ください。

	<p>[担当スタッフ] ○小湊卓夫（九州大）、藤井都百（九州大）、佐藤仁（福岡大）、難波輝吉（名城大）ほか</p>
	<p>[Q34] 内部質保証システム設計・運用演習（定員 20 名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の内部質保証システムとは、目標に照らした評価（学修成果の測定等を含む現状把握）と改善（FD 活動等）を継続的に行う仕組みです（ある種の TQM）。この構築のためには、学内の評価制度の再整理が必要となります。 ・このセッションでは、副学長等の管理職の方、実務担当者の方など、実際に「内部質保証システム」を設計し、運用しなくてはならない方を対象に、実践的な設計のポイントと運用のコツについて大学改革支援・学位授与機構のガイドラインや大学教育再生加速プログラム採択校等での実践事例をもとに講義、解説を行います。 ・参加者には、事前作業をしてもらったワークシートをもとに、ペアワーク、グループワークをしてもらいながら、それぞれの大学において内部質保証システム構築のためにやらなくてはならないこと、すべきことを考えてもらいます。 <p>[担当スタッフ] ○畠田敏行（茨城大）、白石哲也（清泉女子大）、齋藤渉（東北学院大）、上島洋佑（愛媛大）ほか</p>

第 3 日 : 8 月 24 日 (金) 午前・午後 [セッションごとに開始・終了時間が異なります]	
<p>9:15～11:45 (最大延長 12:00)</p>	<p>[R41] IR 実務担当者セッション（午前）（定員 30 名程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の「IR 実務担当者連絡会」を、セッションの 1 つとして組み込みました。 ・会員の皆様から IR や評価の現場での事例や課題を報告いただき、報告に基づいて参加者全員で議論し、自大学での取り組みに対するヒントを得るとともに IR や評価の知見の共有を図るセッションです。 ・報告者による話題提供と、質問感想票を活用した総合討論を行います。 ・このセッションの報告タイトルと報告者は以下のとおりです。概要は別紙 1 をご覧ください。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ETL ツール「Tableau Prep」 と AWS の取組事例の紹介について 相生 芳晴（学校法人上智学院 IR 推進室）</p> <p>IR Case Study : 大学マネジメントの意思決定を支援するデータ分析とレポート 山本 幸一（明治大学 教学企画事務室）</p> <p>第 3 期認証評価受審における IR の役割と課題 荒木 俊博（淑徳大学 大学改革室）</p> <p>大学の IR における計量経済学的因果推論手法の有効性及び課題の考察 井芹 俊太郎（法政大学 総長室付大学評価室 IR 担当）</p> </div> <p>[担当スタッフ] 浅野茂（山形大）、佐藤仁（福岡大）、関隆宏（新潟大）、末次剛健志（佐賀大）、藤井都百（九州大）、藤原宏司（山形大）、山本幸一（明治大）、橋本智也（四天王寺大学）、荒木俊博（淑徳大）、上島洋佑（愛媛大）ほか</p>
<p>13:15～15:45 (最大延長 16:00)</p>	<p>[R42] IR 実務担当者セッション（午後）（定員 30 名程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催形態は午前中と同様です。

	<p>・このセッションの報告タイトルと報告者は以下のとおりです。概要は別紙1をご覧ください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大学改革支援・学位授与機構による大学における情報活用の支援について</p> <p>周東 夏希（大学改革支援・学位授与機構 大学ポートレートセンター事務局）</p> <p>大学への調査は”負担”か？”説明責任”か？-A 大学における調査対応の実態把握-</p> <p>藤原 僚平（福岡大学エクステンションセンター事務局）</p> <p>齋藤 渉（東北学院大学学長室インスティテューショナル・リサーチ（IR）課）ほか</p> <p>IR 部門に求められる役割-Volkwein の「IR の 4 つの顔」を敷衍して-</p> <p>丸山 研二（久留米工業大学 IR 推進センター）</p> <p>情報要求に基づく最適な意思決定を実現する IR</p> <p>岩野摩耶（明星学苑 理事長室統合 IR センター）</p> </div> <p>[担当スタッフ] 浅野茂（山形大）、佐藤仁（福岡大）、関隆宏（新潟大）、末次剛健志（佐賀大）、藤井都百（九州大）、藤原宏司（山形大）、山本幸一（明治大）、橋本智也（四天王寺大学）、齋藤渉（東北学院大）、上島洋佑（愛媛大）ほか</p>
9:30～12:00	<p>[R43a] 初歩的な統計講座 [講義編] (定員 30 名)</p> <p>事務系職員を対象とした統計の基礎を学ぶ勉強会です。午前はデータの種類（量的・質的、名義・順序・間隔尺度など）、データの代表値や散らばりの指標（平均値、中央値、四分位数、分散、偏差値、相関係数）などについて解説し、それぞれに適した処理や見方をするための基礎知識や、グラフ化したりする際のポイントなどの修得を目的とします。</p> <p>[担当スタッフ] 藤野友和（福岡女子大）、森裕一（岡山理科大）、山本義郎（東海大）、小湊卓夫（九州大）ほか</p>
13:30～16:00	<p>[R43b] 初歩的な統計講座 [演習編（初学者向け）] (定員 20 名)</p> <p>午前中もしくは昨年度の講座を受講された方などを対象に、模擬データ（成績関係）を使って簡単なデータ分析の演習を行います。この演習では Excel を利用しますが、表の作成程度にしか Excel を使ったことがない初心者を対象とします。</p> <p>当日は参加者ご自身で、マイクロソフト社の Excel がインストールされたノート PC をご持参ください。</p> <p>Excel のバージョンは 2016 を前提に説明を行います。2016 より前のバージョンの場合、一部の機能が実行できない場合がありますので、予めご了承ください。</p> <p>[担当スタッフ] 藤野友和（福岡女子大）、森裕一（岡山理科大）、山本義郎（東海大）、小湊卓夫（九州大）ほか</p>
9:15～12:15 (最大延長 12:30)	<p>[R44] 研究マネジメントに資する IR (定員 30 名)</p> <p>・日本におけるインスティテューショナル・リサーチの一つに、研究マネジメントに資する IR（通称、研究 IR : Institutional Research for Research Activity）があります。機関単位から個人単位に至るまで、幅広く研究力や研究業績の調査・分析が行われており、執行部の意思決定を支援しています。研究 IR の実施内容は、機関毎の目的によって大きく異なります。また、分析結果を的確かつ端的に表現することが求められており、各担当者の作成するレポートは、多様で独自性のあるアイデアに溢れています。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・他者のレポートを知り、そこに込められたアイデアを発見することは、新たなレポートの着想に繋がると考え、本セッションを企画しました。なお、このセッションでは、外部資金獲得情報、学術文献情報、特許情報などを活用した分析を対象としています。 ・加えて、このセッションでは、これらの周辺の話題についても取り扱います。また、すべての報告に先立ち、我が国の研究マネジメントの現状と課題と IR 機能の果たすべき役割についても整理を行います。 ・このセッションの報告タイトルと報告者は以下のとおりです。概要は別紙2をご覧ください。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「学際的な学問分野における研究力比較についての基礎的な考察」 畠田敏行（茨城大学 全学教育機構）ほか</p> <p>「中規模地方大学における全教員を対象とした論文業績調査の実施例」 永井博昭（群馬大学 研究・産学連携推進機構 研究・産学連携戦略本部 URA 室）</p> <p>「学術文献データを活用した研究業績分析」 山本鉦（九州工業大学 インスティテューショナル・リサーチ室）</p> <p>「科研費の採択情報から見えてくる自大学の特色」 田中秀典（宮崎大学 IR 推進センター）</p> <p>「教員の多様な活動からみる研究 IR」 岡部康成（帯広畜産大学 人間科学研究部門 人文社会学・言語科学系）</p> <p>「若手研究者環境調査（博士人材について）」 大島昭子（宇宙科学研究所）</p> </div> <p>[担当スタッフ] ○山本鉦（九州工業大）、畠田敏行（茨城大）、岡部康成（帯広畜産大）、田中秀典（宮崎大）、難波輝吉（名城大）、齋藤渉（東北学院大）、大津正知（中京大）、花邊圭輔（九州工業大）ほか</p>
10:00－14:30	<p>[R45] BI ツール（Power BI）活用実践講座（定員 20 名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本コンソーシアム会員である榊原氏が、自社製品の開発等においてこれまで蓄積したマイクロソフト社 Power BI の実践的ノウハウをコンパクトにまとめ、実習方式で行う参加者提案型セミナーセッションです。 ・本セッションでは、参加者の方が IR 実務で BI ツールを活用できるようになることを目指し、実践講座準備及び実践講座の2部構成で行います。実践講座の内容は1部に「とりあえず簡単なグラフを書いてみる」として、データのインポート、様々なグラフの作成等を行い、2部は「分析実務に必要な重要なノウハウ」として、MS サポートの利用方法、データインポートのノウハウ等を紹介します。 ・マイクロソフト社 Power BI Desktop（無料版）がインストールされた PC をご持参ください。なお、PC のメモリは出来るだけ多いもの（推奨は 8G 以上）が望ましいです。 ・参加申し込み時に、Power BI Desktop の使用、ピボットテーブル（マイクロソフト社 Excel）の利用等について確認しますので、ご自身の状況を入力願います。 ・株式会社メディアフュージョン様の製品説明等はありません。製品情報等をお知りになりたい場合には、本セッションの時間外にお願いします。

	<p>※本セッション開始前に、インストールサポート（09:00～10:00）を行いますので、ご希望の方は事前にお知らせください。</p> <p>※本セッション終了後は、アフターミーティング（14:30～15:30：参加任意）を設定しますので、質問がある方、もう少し学びたい方はこの時間帯をご活用ください。</p> <p>〔担当スタッフ〕 榊原淳（株式会社メディアフュージョン）、大野賢一（鳥取大）、畠田敏行（茨城大）、白石哲也（清泉女子大）、山本鈺（九州工業大）ほか</p>
--	---

7. 参加受付

- ・ ほぼ満席となっております。
- ・ 大学評価コンソーシアムの web サイトから申し込み、確認を行うことができます。
- ・ キャンセルについては、8月2日（木）までは、web システムでお願いします。それ以降は、ややご面倒ですが、「acc2018@ml.ibaraki.ac.jp」までご連絡ください。

8. ネットワークおよび電源環境

- ・ 会場では、eduroam をご利用いただけます。eduroam 非加盟校の方で、セッション等での作業などでネットワーク接続が必要な方は、ご相談ください。
- ・ 電源については、原則的に準備はしませんので、事前の充電をよろしくお願いします。

9. 注意事項

※各セッションでは、画面のみでご覧いただく資料も多数あります。そのため、録音、撮影はご遠慮ください。

- ・ 配布可能なものだけ、みなさまに資料はお配りします（原則的に、何らかの資料は配付します）。
- ・ 記録用に運営スタッフが写真撮影、録音をさせていただきます。

10. 今後の予定

【8月 2日（木）】参加受付及び評価・IR の実践・課題共有セッションの「事前課題の提出」の締切（18時まで）

【8月16日（木）】講演資料等のオンライン配布

11. 大学評価コンソーシアムの web サイトについて

昨年度までの様子、成果（報告書）については、こちらのサイトにお進みください。また、会員登録については、メニュー左下の「会員専用」のところからお進みください。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php>

本件の問い合わせ先

運用スタッフ用メーリングリストをお願いします。

acc2018@ml.ibaraki.ac.jp

以下の、問い合わせ先でも対応可能です。

[内容に関すること]

茨城大学 全学教育機構 畷田 敏行

toshiyuki.shimada.ir@vc.ibaraki.ac.jp

電話：029-228-8530

[会場に関すること]

九州工業大学 インスティテューショナル・リサーチ室 山本 鉦

yamamoto-k@office.kyutech.ac.jp

電話：093-884-3516

謝 辞

大学評価・IR 担当者集会 2018 の開催にあたり、以下の経費も利用しております。なお、一部スタッフについては、所属校の経費で参加しております。記して謝意を述べさせていただきます。
文部科学省教育関係共同利用拠点 次世代型大学教育開発拠点（九州大学 基幹教育院 次世代型教育開発センター）



- 平成27年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）
「大学の評価・IR 機能の高度化のための実践知の収集・分析とその活用に関する研究」（課題番号：15H03469、研究代表者：畷田敏行）
- 平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（C）
「IR を活かす学内データ管理に関する研究：統合型データベース構築への第一歩として」（課題番号：17K04603、研究代表者：藤原宏司）
- 平成30年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（C）
「大学の数量的な「共通知」から分析マインドを涵養する人材育成プラットフォームの開発」（課題番号：18K02706、研究代表者：大野賢一）
- 平成30年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（C）
「教学マネジメントを支援する大学の専門的職員のあり方に関する研究」（課題番号：18K02729、研究代表者：小湊卓夫）



[R41] IR 実務担当者セッション（午前）・報告概要

ID	タイトル	概要	報告者 ○は、当日発表者
1	ETL ツール「Tableau Prep」 と AWS の取組事例の紹介について	データ分析の前工程を効率化する ETL(Extract/Transform/Load)ツール「Tableau Prep」の機能紹介と、AWS(Amazon Web Services)に移行したシステムの、改善・分析事例について紹介する。	○相生 芳晴（上智学院）
2	IR Case Study：大学マネジメントの意思決定を支援するデータ分析とレポートイング	概要：IR にとって価値ある分析とは、問題解決に向けた議論が始まり、あるいは動きを生み出すことにあると考える。本報告では、具体的なケース、例えば中期計画における達成目標の設定、教育プログラムの評価と見直し、海外大学とのアライアンスの検討等におけるデータ活用事例を検証しながら、より効果的なデータ分析やレポートイングの方法について議論したい。	○山本 幸一（明治大学）
3	第 3 期認証評価受審における IR の役割と課題	平成 30 年度から認証評価は第 3 期をむかえ、認証評価では内部質保証がどのように大学で構築され運用されているかを見られる。本報告では、大学基準協会の第 3 期認証評価受審時にどのようなデータや情報が必要であるかや、また受審事例や課題について報告を行う。	○荒木 俊博（淑徳大学）
4	大学の IR における計量経済学的因果推論手法の有効性及び課題の考察	これまでの我が国の IR においては、データの可視化や比較・相関分析等に基づく情報提供の取組が数多く報告されてきた。その一方で、より厳密な因果推論手法を基にした情報提供の取組は未だ数少ない。そこで、本報告ではまず、文献調査を土台とし、計量経済学的因果推論手法及びそれらを用いた分析事例をいくつか紹介する。そのうえで、大学の IR における上記手法の有効性と課題について報告者の意見を述べるとともに、出席者との意見交換を行いたい。このような情報共有と議論の機会は、IR 担当者が分析を深掘りする際の手法の選択、さらに、将来的に日本の IR 担当者に求められる「技術の知性」は何か等の考察を深めることに寄与し得ると考えている。	○井芹 俊太郎（法政大学）

[R42] IR 実務担当者セッション（午後）・報告概要

ID	タイトル	概要	報告者 ○は、当日発表者
5	大学改革支援・学位授与機構による大学における情報活用の支援について	当機構は、評価や大学ポートレートで各種データを収集しており、関連データである国公立大学の「大学基本情報」を公表するなど、ベンチマーキング等に活用いただく手立てを模索している。本報告では、機構のこれまでの取組と課題、今後の展望を紹介し、より良い支援を行うための議論をしたい。	○周東 夏希（大学改革支援・学位授与機構）
6	大学への調査は”負担”か？”説明責任”か？—A大学における調査対応の実態把握—	本発表では、A大学を事例として外部機関が大学を対象に実施する調査の件数や対応状況をガントチャート等を用いて整理・可視化し、大学への調査が”負担”なのか”説明責任”なのか広く議論するための情報を提供する。その上で、IR部署が組織の継続的な改善のための意思決定を支援するために行う情報の収集と分析に関わる業務上の”負担”や課題についてディスカッションする場としたい。（本発表は「継続的改善のための IR/IE セミナー2018：IR 実務担当者セッション」で報告した研究の続報である。）	○藤原 僚平（福岡大学）・○齋藤 渉（東北学院大学）・上島 洋祐（愛媛大学）
7	IR 部門に求められる役割 — Volkwein の「IR の 4 つの顔」を敷衍して—	現在、多くの大学・研究機関で IR 部門が設立され、組織の整備と業務の運営が着実に進んでいる。実際に「内部質保証」「アセスメント」といった文脈では IR 部門は重要な役割を担っている。しかしながら、大学の教職員の大多数が IR 部門の意義を理解し、共通の認識を持つ状況には至っていないように思われる。 本報告では、Volkwein の「IR の 4 つの顔」の視座に立って日本における IR 機能の全体像を俯瞰し、IR 部門に求められている役割を論じる。IR 機能を俯瞰することは、IR 担当者がアイデンティティを確立するために役立つとともに、大学に関わる方々が IR 部門に対する理解を深めるために有意義である。	○丸山 研二（久留米工業大学）
8	情報要求に基づく最適な意思決定を実現する IR	学校法人明星学苑では、2017 年に経営力強化の方針を打ち出し、2018 年に経営と教学を統合した形で執行部の意思決定の支援を行う「統合 IR センター」を新たに設置した。本発表では、日英における IR 組織を多面的に整理しながら、本法人における IR に関する組織デザインの特徴と狙い、活動内容について報告を行う。	○岩野 摩耶（明星学苑）

別紙2：[R44] 研究マネジメントに資する IR 詳細プログラム

ID	タイトル	概要	報告者 ○は、当日発表者
1	学際的な学問分野における研究力比較についての基礎的な考察	単一ディシプリンの場合には、論文数や被引用数などでの比較によって学界に与えたインパクト等の比較が可能である。しかしながら、複数のディシプリンにまたがる研究成果の比較は一般に容易ではない。今回は環境分野を例に研究力の機関別比較をどのように行えばよいか、ということについて考察を行った結果について報告したい。	○畠田敏行（茨城大学 全学教育機構）・長谷部徳子（金沢大学 環日本海域環境研究センター）・落合伸也（金沢大学 環日本海域環境研究センター）
2	中規模地方大学における全教員を対象とした論文業績調査の実施例	本報告は本学で実施した論文業績調査の事例を報告するものである。約 800 名の常勤教員に対する依頼から調査までを URA1 名と事務補佐員で担当した。調査にあたって教員負担を最小限にとどめるため、学内のデータベースと学術文献データベースを活用した。その取り組み事例を紹介するとともに、より良い方法について参加者と議論を行いたい。	○永井博昭（群馬大学 研究・産学連携推進機構 研究・産学連携戦略本部 URA 室）
3	学術文献データを活用した研究業績分析	本学では、Scopus に収録された学術文献データを基に、定期的な研究業績分析を実施している。具体的には、著者の所属機関に本学が含まれる文献データを収集し、著者数や論文数、共著形態などの動向をレポートしている。今回は、この分析に活用しているフォーマットの一部について紹介する。なお、研究業績分析と研究力分析では異なるデータセットを用いる必要があり、これらの違いについても簡単に説明する。	○山本鉦（九州工業大学 インスティテューショナル・リサーチ室）
4	科研費の採択情報から見えてくる自大学の特色	科学研究費助成事業（科研費）は、あらゆる「学術研究」を対象とする唯一の競争的資金であり、多くの大学等から広く応募されている。この採択情報については、データベースとして一般に公開されている。今回は、このデータを用いて他大学をベンチマークしながら自大学の知る取り組みについて、本学で行った分析の事例を紹介したい。	○田中秀典（宮崎大学 IR 推進センター）
5	教員の多様な活動からみる研究 IR	組織の研究力の向上を考えるうえでは、外部資金等の研究費や論文数など研究に直接的なデータだけでなく、授業等の教育活動や委員会等の大学運営への関与など、大学内で行われる教員のさまざまな活動についても把握・活用し、マネジメントすることが重要であると考えられる。今回の発表では、帯広畜産大学が行っている多元的教員業績評価のデータに基づいて、教育活動などの他の視点からみた研究 IR 活動について報告する。	○岡部康成（帯広畜産大学 人間科学研究部門 人文社会学・言語科学系）
6	若手研究者環境調査（博士人材について）	宇宙科学研究所では、卓越研究員事業を利用した事を契機に、若手研究者の置かれている状況及び研究環境の詳細な調査を進めている。特に、宇宙と言う特定の分野に優秀な研究者を安定的、継続的に雇用し、また活躍していただくためには、需給バランスも考慮した上で魅力的な条件の提供が必要であり、そのための実態調査である。	○大島昭子（宇宙科学研究所 特任准教授）

		今回は若手研究者のなかでも、宇宙科学研究所のポスドク制度で雇用されている研究者を中心に報告する予定である。今後追跡調査なども進めるにあたって、大学でこれまで行われてきた学生の入試から卒業後までの追跡調査方法、データ蓄積法について、有効な手法などご議論いただければと思います。	
--	--	---	--